

平成26年度
北海道大学大学院理学院
修士（博士前期）課程
第二次

自然史科学専攻

科学コミュニケーション講座

入 学 試 験

（専門科目）

問 題

- ◎ 解答用紙2枚のいずれにも受験番号と氏名、選択した問題番号を記入し、試験終了後に2枚とも提出してください。
- ◎ 各問題の出典となっている文献を試験中に参照することはできません。

問題 以下の8題のうちから2題を選び、それぞれ800字～1200字程度で解答しなさい。

テーマ「科学技術コミュニケーション」からの出題

1. ローカルノレッジとは何か。定義を簡潔に記したうえで、科学技術コミュニケーションとの関わりが明らかになるように説明しなさい。

テーマ「科学技術社会論」からの出題

2. 以下の2aか2bのいずれかを選択して解答しなさい。
 - 2a. 19世紀まで西欧諸国に遅れをとっていた米国が、20世紀には世界の科学のリーダーと見られるに至ったのはなぜか。
 - 2b. 課題図書（『公共社会学 [1]』）所収の三つの事例研究（エネルギー施設の立地、ダイオキシン論争、長良川河口堰問題）からいずれか一つを取り上げ、概要を手短かに説明したうえで、その内容について自由に論じなさい。

テーマ「科学哲学」からの出題

3. 頻度主義が全証拠の原則に反する、という尤度主義の批判はどのようなものか。また、尤度主義が全証拠の原則に合致するという根拠は何か。具体的な例に則して答えなさい。

テーマ「科学技術とリスク」からの出題

4. 産業災害リスクを評価するための手法としてどのようなものがあるか。代表的な例を挙げて、それぞれ簡単に説明しなさい。

テーマ「博物館学」からの出題

5. 構成主義に基づく博物館の特徴について、学校教育と比較して説明しなさい。

テーマ「博物館からの情報発信」からの出題

6. 展示の教育機能を強化するための課題と具体的な方策を述べなさい。

テーマ「高等教育」からの出題

7. 『プロフェッショナル・ディベロップメント—大学教員・TA研修の国際比較—』の記述から「教育改善のための学生調査」の概要と日米の現状について説明しなさい。

テーマ「科学教育」からの出題

8. 以下の8aか8bのいずれかを選択して解答しなさい。
 - 8a. ワイナー（Weiner）の原因帰属理論について、以下の問いに答えなさい。
 - 1) 原因帰属理論は2つの理論が元になった複合理論と言われている。それらを簡単に示し、何が問題となったのかを説明しなさい。
 - 2) 原因帰属理論を考慮した生徒の意欲の引き出し方について、具体的な理科の授業場面から論じなさい。
 - 8b. 社会構成主義の立場から「個人」および「科学的知識」とはどのようなものかを説明し、社会構成主義の立場に立った時の科学の可能性について論じなさい。

解 答 用 紙

受験番号 () 氏 名

選択した問題番号 ()

解 答 用 紙

受験番号 () 氏 名

選択した問題番号 ()